

5～7歳を対象にした
戦争テーマの絵本は希少です

よわむしばくだん

さく：おかだしんご え：ニシハマカオリ

発売：2023年8月15日 定価：1,600円（税別）

仕様：A4変型 28ページ

戦争の怖さ、悲惨さ、愚かさが、 子どもにも実感をもって伝わる物語

戦時中に日本に落とされた爆弾（不発弾）が主人公の物語です。

土の中でずっと一人ぼっちでしたが、ある日一匹のもぐらと出会います。

不発弾は日本の民家が立ち並ぶまちに落とされるのを嫌がったことから、

爆弾の仲間たちから「よわむし」扱いされます。

不発弾は、その話をもぐらに聞かせます。はたして、不発弾は本当によわむしなのでしょうか。

もぐらは、そうは思いません。

やがて、不発弾の身に危機が迫ったとき、もぐらは不発弾のために親身になって行動します。

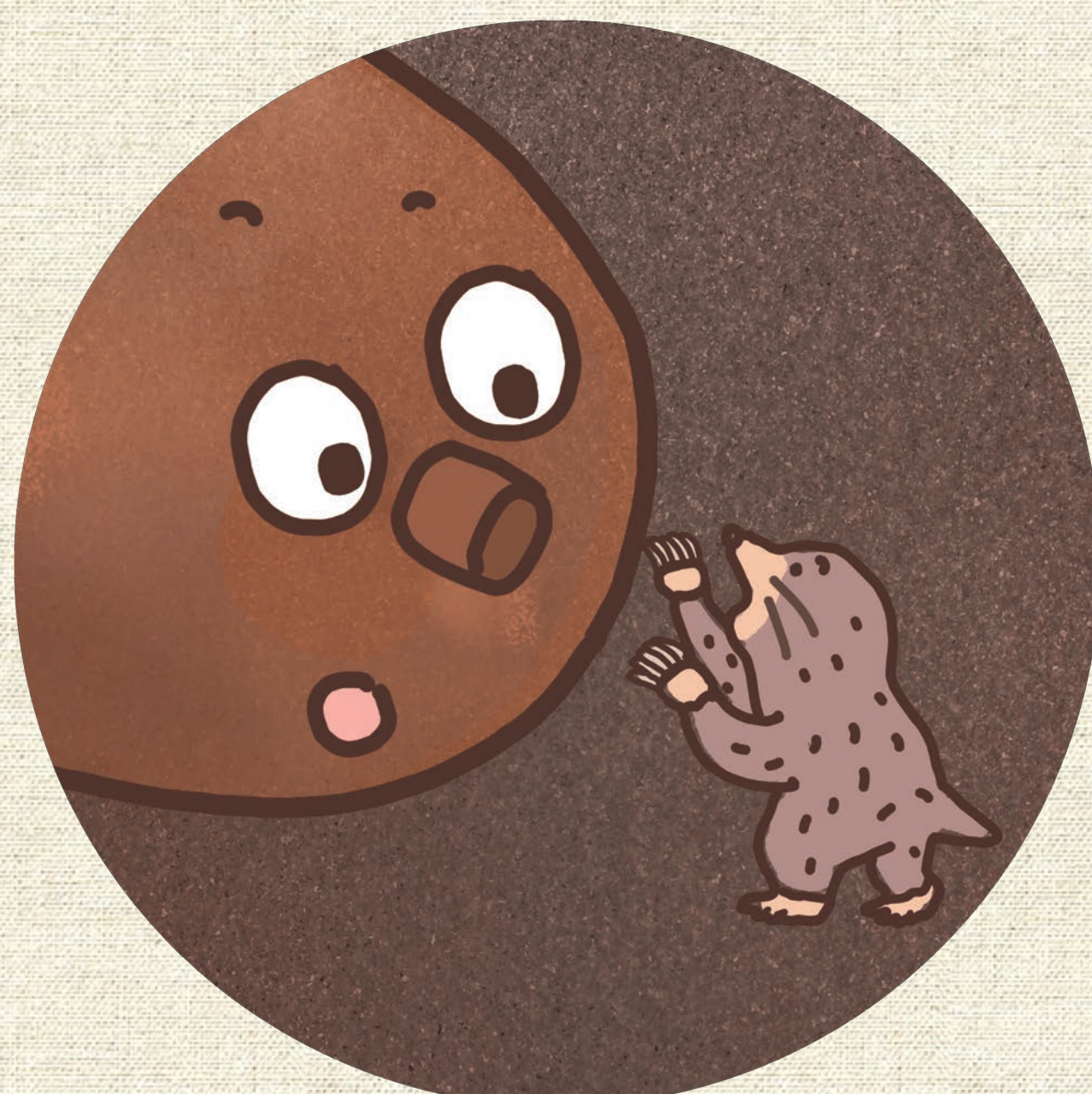
そのとき地上では、不発弾の近くに暮らす家族が、

ひいおじいちゃんも体験した空襲の怖さを語り合っていました。

不発弾ともぐら、そして避難した家族を通じて、戦争の悲惨さ、愚かさをあぶり出します。

不発弾が戦争の正体を暴き、現代を生きる子どもたちにも、

戦争がどういうものか、まっすぐ伝えます。



創作にいたった経緯

太平洋戦争開戦から80年が過ぎ、戦争の記憶の風化が進んでいます。しかし、戦争が身近に感じられる出来事に思いがけず遭遇することがあります。米軍が落とされた不発弾が見つかったときまさにそうです。著者は、家族で避難する人たちの緊迫した姿をテレビで見て、戦争は現代を生きる人々の暮らしにも影響を及ぼしていることを思い知らされます。もし不発弾が爆発すれば、令和生まれの子どもでもさえも戦争の犠牲者になるのですから……。作者は不発弾の恐ろしさを実感したことで、不発弾を絵本の主人公にしたら、戦争を過去のものにしない戦争をテーマにした絵本が令和の時代に創作できると確信しました。悲しいことですが、不発弾が戦争の悲惨さを呼び覚まし、現代を生きる子どもたちにも、戦争というものがどういうものか、理屈ではなく肌感覚でわかってもらえるのではないかと感じたのです。不発弾の存在に目を向けることで、現代人は平和と呼ばれる時代にあっても、戦争は日常の中にまだ潜んでいることに気づかれます。そして、戦争の怖さをあらためて知ることとなります。戦争が遠い昔の出来事でも他人事でもなく、目を背けることのできない自分事として捉えることでしょう。大人も子どもも関係ありません。それゆえ、年齢の壁を超えて、戦争の怖さと愚かさ、そして平和の尊さを親子で語り合うことができると思うのです。

ウクライナ侵攻から目を背けない

ロシアのウクライナ侵攻は一向に終焉に向かう気配がなく、現在もお昼夜関係なく爆弾（ミサイル）がウクライナ全土の上空を飛び交っています。狙われるのは軍事施設とは限りません。市民が暮らすまちや住居に降り注ぎ、罪のない人々が、無差別に殺されています。この状況は、今回出版した絵本で描いた内容と重なります。この絵本は、ウクライナ侵攻のもとに行われるロシアの空襲から目を背けないでほしいと願う作者のおもいも込められているのです。

タイトルに込められたおもい

主人公の爆弾は、市民が暮らすまちにも落とされることを知り、

それまで勇ましかった気持ちがしぼんでしまいます。

罪のない人々を傷つけたくないからです。

爆弾の仲間たちは、「戦争に勝つためには仕方ないよ」と説得します。

それでも納得しないので、「よわむし」と決めつけられてしまいます。

タイトルの「よわむしばくだん」は、爆弾の仲間たちの目線から見た呼び名です。

しかし、本当にこの爆弾は「よわむし」なのでしょうか。

見る人の立場が変われば、見方も当然変わります。

戦争に巻き込まれた人々の目から見たら、決して「よわむし」なんかではないはず。

それでもあえて、「よわむしばくだん」をタイトルにしました。

その方が、読者への問題提起になるからです。

この絵本を手にした子どもたちは、読み終わったあと、

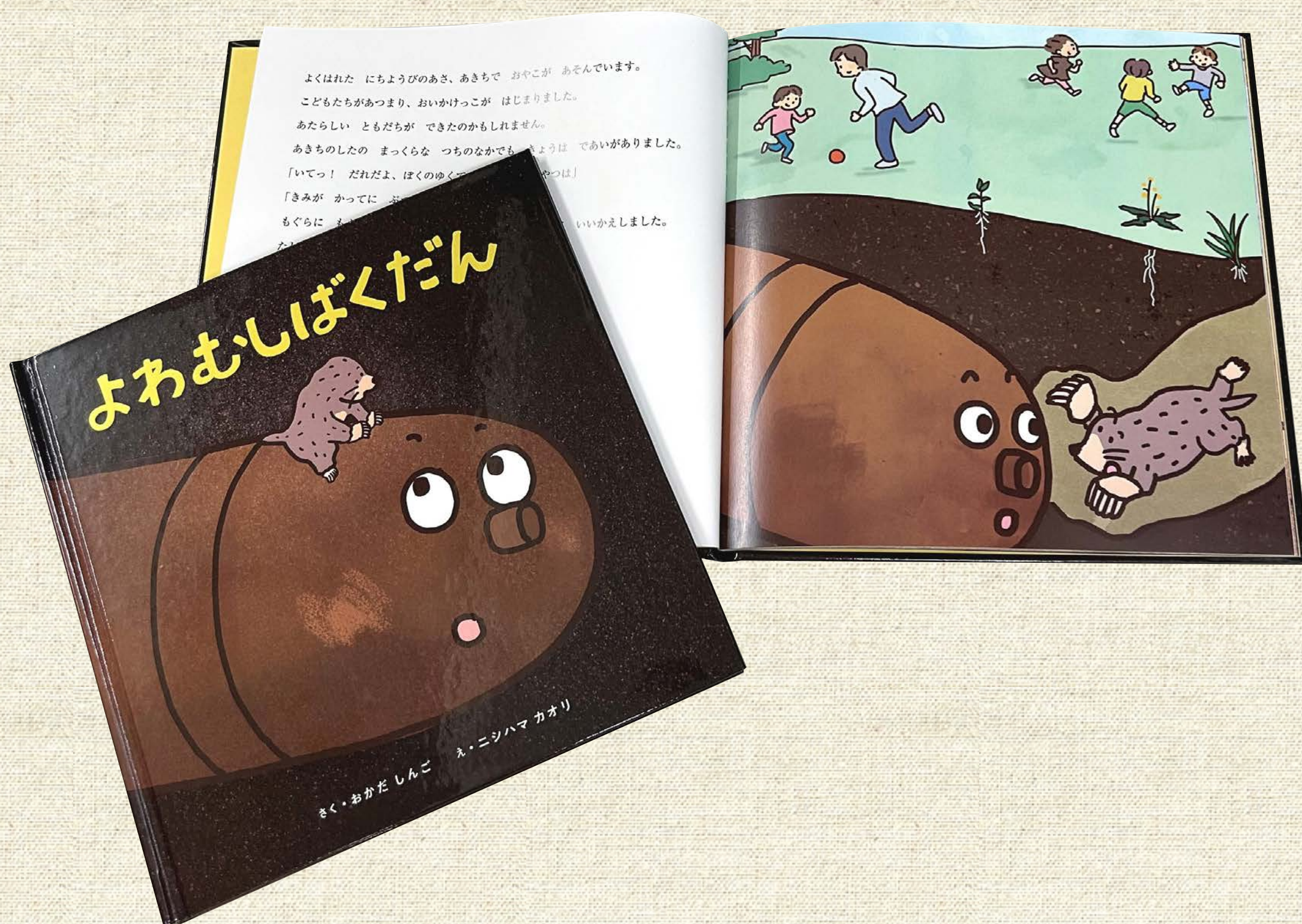
爆弾が決して「よわむし」ではないと感ずることでしょう。

そして、もぐらの気持ち（ぼくは、ばくだんに生まれなくてよかったよ。「よわむし」といわれたって

気に入らない）にも理解を示すことでしょう。

戦争が憎むべきもので、「怖い」「嫌い」と感じることで、

人間にとって自然で当たり前の感情であることに気づいてもらえたら幸いです。



著者経歴

岡田 新吾（おかだしんご）

1964年、岐阜県各務原市に生まれる。各務原市在住。大学卒業後、広報や広告の仕事の傍ら、小学生を対象にした学年誌の編集に携わる。東京から地元に戻り、2009年に処女作となる児童向け小説『約束のつばさ』（ゆいほおと/KTC中央出版）を発表。他に『つばめの家』（東北出版企画）、絵本『シャバーニ だいすき』『あち あち』（三恵社）など。

ニシハマカオリ

大阪生まれ、徳島で育つ。愛知県在住。小学校の教諭を経てイラストレーターに。絵本・児童書の仕事に『おつきみどろぼう』（三恵社）、『ぞうくんの ゆびにんぎょう』きむらゆういち/作 こどものくに ひまわり版（鈴木出版）、『はぐろとんぼのほうけん』おかだしんご/作（三恵社）、『いたずらゴブリン 南の国なんて大きらい』ピクチャー・ケラハ/作・幾島幸子/訳（小学館）など。

絵本に関するお問い合わせ先

株式会社三恵社 担当：林 良和
〒462-0056 名古屋市中区丸町2-24-1 TEL 052-915-5211 FAX 052-915-5019

★作者に直接ご連絡いただいても結構です

岡田新吾 日本ペンクラブ会員 有限会社エピソード代表
〒460-0008 名古屋市中区栄5-16-14 新東陽ビル6F E-mail:okada@episword.co.jp
TEL.052-251-0305 FAX.052-251-0310